防災・安全に関する緊急対応

～学校の対応力と第４の基礎学力育成～

船越小学校の対応マニュアル　　**～初動が全てを左右する～**

１　情報収集・・・職員室で複数の人で複数の箇所から情報を収集する。
　　・教頭か主幹教諭　　・事務か事務補助
　　・その他（状況に応じて担任等も加わる場合もある）

２　情報を教頭・主幹教諭に集め複数で協議→最終決定を校長（不在の時は教頭）が行う
- ◆　全校一斉学団毎　一斉放送で学団毎に１年廊下に集合させる。
  そろったら、生徒指導担当及び学団担当が中心で下校させる。準備終了後
  次の学団を送り出す（放送して）、次から次に下校させる。
- ◆　学年毎に下校。学年でそろい担任が下校させる。
- ◆　状況に応じて待機の場合は、各クラスかふれあいルーム・体育館で待機する。
- ※　教員は当事者意識を持って状況に応じて主体的に判断し情報提供や
  役割を自覚し遂行する。

３　全体に緊急性を持って放送で伝える。（教頭・主幹教諭）
「緊急放送、緊急放送・・・」
※担任及び児童は、静かに聞くようにする。→素早く対応準備をする。
→「安全・迅速」で行う。

※同時進行で予告メールを定期的に行う（主幹・教頭）
※朝から緊急対応が予測される場合は、メール文など複数準備しすぐに送信できる準備をしておく（教頭が日常文の例文をデータで準備しておき、コピー貼り付けでだれでもが対応できる準備をしておく）
※緊急メールが誰でも対応できるように全体パソコン・主幹教諭・校長パソコンデスクトップにも準備しておく。

４　放送と同時に、保護者に学校安心・安全メールで一斉発信を行う。（教頭か主幹）
未加入者には、担任外で連絡する。
さらに、児童整理後、連絡網で担任が念押しの連絡をする。
- ◆　安心・安全メール加入状況を確認し、加入率を上げる。
- ◆　学級連絡網に未加入者が分かるようにしておく。

５　職員室に教頭・主幹教諭が待機し、その他の教員は引率したり危険箇所（配布済み）を中心に見回ったりする。最終確認まで行うようにする。

※シルバー保安官への連絡を確実に行う（主幹・教頭）
※４月段階に、非常時の対応について代表者と打合せを確実に行っておく（教頭・主幹）

児童へ第４の基礎学力の育成（緊急時避難スキルの習得）

初動訓練の徹底を！！

①緊急放送の聞き方　　②放送後の迅速な準備や行動の徹底訓練
→スキルの習得及び非難訓練での活用を行い、緊急時にも子どもが主体的に判断して行動できるようにする。